

環境・エネルギー分野

研究領域

「地球規模の環境課題の解決に資する研究」

採択年度	2017年	研究期間	5年間
研究課題名	在来知と生態学的手法の統合による革新的な森林資源マネジメントの共創プロジェクト		
研究代表機関	京都大学アフリカ地域研究資料センター		
相手国	カメルーン共和国	主要相手国 研究機関	国立農業開発研究所 (IRAD)
研究課題の概要			
<p>本研究は、カメルーン東南部の熱帯雨林において、住民生活と両立する生物多様性保全および森林保全を推進するために、在来知と科学知を統合した森林資源マネジメントモデルの開発を目的とする。まず、カメラトラップによる動物生息密度の推定方法を確立し、森林資源に関する住民の在来知を統合することで、科学的根拠を持ち、かつ住民自身が運用できる野生動物のモニタリング方法を考案する。並行して、野生動物モニタリングに基づく狩猟管理と、住民の収入向上につながる森林資源の商品化を組み込んだ、森林資源マネジメントを提案し、その運用主体となる住民組織を育成する。こうして開発したマネジメントモデルをプロジェクト地域にて試験的に適用し、その検証をふまえて適用マニュアルを策定した後、カメルーンの森林保全政策へ反映させる。将来的には、コンゴ盆地における生物多様性保全の優先地区でのモデル拡大を目指す。</p>			